

# それでも前へ

## ASEAN と日本をつなぐ

日本企業の進出ラッシュに海外、特に東南アジアから批判の声が渦巻いていた1970年代。72年11月には、タイの学生を中心にした大規模な日本製品不買運動が。また、74年1月、田中角栄首相(当時)が東南アジア諸国を歴訪した際は、タイとインドネシアで激しい反日暴動が起きている。こうした中、当時の経済界は進出先国との共存共栄など投資行動についての指針を策定。74年7月、指針を普及させるための団体として日外協が設立された。

日外協は86年、指針の精神を体現する活動として国際交流に着手。海外の「日本語スピーチ・コンテスト」の優秀者を1週間日本に招くことになり、第1回はマレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの4カ国から8人の代表を迎えた。

あれから35年、ASEANからの招へい者は累計338人に上る。

日本とASEANの間では、<sup>うよきよくせつ</sup>紆余曲折を経ながらも政治・外交だけではなく様々なレベルで交流が行なわれている。コロナ禍の渦中にある今も。そして、これからも。



第1回スピーチ発表会(中央のセピア画像)と  
2011~2019年の参加者の皆さん